

## 中国青海省の夜市に関する研究

羽川 史子

文化人類学・宗教学・日本思想史専門 前期課程1年

調査者は、中国西北部の夜市と呼ばれるナイトマーケットを対象に研究をすすめている。夜市は、その言葉の意味するところにおいて今日実にさまざまな広がりを見せる対象である。中国において、一般では夜市と呼ぶ際には、その場所はディスコやクラブ、ブティックなどの集まる繁華街を意味することが多いが、調査者が研究対象とするのはシャオチーと呼ばれる軽食を売買する屋台街である。中国では、このような夜市は西部大開発の影響と衛生管理の問題で年々減少する傾向にあるが、内陸部の都市ではまだまだ健在であり、人々の日常生活の一部として根強く息づいている。夜市を調査することは、中国独自の食生活のあり方や、商人文化、また少数民族と漢民族との関係を知る上で非常に有効な研究対象であると調査者は考えている。

2007年度は現地での円滑な調査の準備段階として以下の事柄についての調査を行ってきた。

1. 中国の西北部・青海省西寧市の地理的概要の把握
2. 中国における夜市の発生の歴史
3. 市場に関する人類学的研究の成果の見直し
4. 市場研究に関連して、交換の理論についての把握
5. 中国少数民族に関する先行研究の把握と漢民族との関連性の調査

いずれも研究方法としては文献によるものが大きいですが、日本語の文献のみならず英語や中国語によるものも数多い。そのため、翻訳作業も同時に行う必要があった。

文献による調査のほかは、中国でのフィールドワークのデモンストレーションとして10月に愛知県名古屋市大門での門前市の調査を行い、冬季休暇中には福岡県、博多の屋台街の調査を短期で行った。いずれも中国での現地調査を円滑に行うための有効な調査方法や手順の見直しに非常に役立つ調査であった。さら

に、中国の現地情報や、当面する問題、また政治、思想なども随時把握しておく必要があったため、中国中央政府のサイトなどをチェックすることも日常的な課題としていた。また本大学の中国人留学生たちと交流することで、現地情報などを積極的に得た。

また、調査者は三重大学に在学中（学部4年間）は人文地理学に属しており、人類学についての知識や、学説史等についての知識に乏しかったため、2007年度は上記の専門的な研究のほか、人類学の入門書をはじめ数々のエスノグラフィーや概説書を読み、人類学の方法論等を理解することに努めた。

以上の研究成果等を各授業・演習で発表し、諸先生方・各先輩方と活発な議論を行った。各授業・演習では人類学についての全般的な知識や調査者の研究方法などに関する問題点などを指摘していただき、その都度調査項目の見直しや調査計画の練り直しなどを努めて行った。

2008年度は、3月から3ヶ月間のフィールドワークを予定している。調査者にとっては、初のフィールドワークのため、まずは現地での夜市の規模を把握し、今後の調査方法の詳細な手順を決定することを第一の目標としている。調査地では、日本での調査経験をもとにして、聞き取り・マッピングを主な手法とした計画的な調査を行う予定である。

帰国後には1ヶ月間をめぐりに調査結果の整理を行い、分析作業を行う予定である。また、調査者は、2008年度春のフィールドワークの他に、夏季休暇中の1ヶ月単位の短期調査も計画している。夏には春の調査で得られた調査結果の確認と補足、そして春にお世話になったインフォーマントの住む場所を再度訪れ、関係性を維持するとともに現地に居住する人々に対して、前回の調査の確認と報告を行う予定である。

以上記すところが、調査者の2007年度の研究調査の成果であり、2008年度の調査予定である。